

帝国日本の気象観測ネットワークⅢ - 水路部・海軍気象部 -

山本晴彦 著, 農林統計出版 発行

2017年1月31日, 589pp. 定価 5,800円 (本体)

出版物の著者・山本晴彦氏による今回の書籍は、過去に出版されている『帝国日本の気象観測ネットワーク- 満洲・関東州-』(真木, 2014; 山本, 2014), 『帝国日本の気象観測ネットワークⅡ- 陸軍気象部-』(真木, 2015a; 山本, 2015a) に続く, 3冊目の書籍であり, 600頁に近い大著である。また, 著者には『満洲の農業試験研究史』(真木, 2013; 山本, 2013), 『帝国日本の農業試験研究』(真木, 2015b; 山本, 2015b) がある。本当に感心する著作量である。

さて, 第1章では水路部の創設と水路部での気象観測の開始, 組織の変遷, 第2章では鎮守府における海軍望楼の開設, 気象観測所の設立と気象観測業務, 第3章では横須賀ほか霞ヶ浦・佐世保などの海軍航空隊での気象業務, 第4章では海軍での気象技術者の養成, 第5章では水路部の気象業務の拡充, 第6章では気象観測所の気象業務と拡充, 第7章では海軍気象部の特設, 第8章では特設気象隊の創設と展開, 第9章では水路部修技所と海軍気象学校の設立と展開, 第10章では海軍の気象資料として, 残存する関連資料を気象資料, 気象学教科書・気象術教科書, 気象観測原簿および気象暗号書に分類して紹介している。第11章では終戦時の気象業務, 終章では大田香苗大佐の回想録, 高橋淳雄大尉第3気象隊の人事資料, 附表等が記述されている。

次に, 今回の書籍について構成を記述する。

まえがき

序章 課題と方法

第1章 水路部の創設と気象観測の実施

1. 水路部の創設, 2. 水路部における気象観測の開始, 3. 水路部における組織の変遷

第2章 鎮守府における気象観測

1. 鎮守府における望楼の開設, 2. 横須賀鎮守府気象観測所, 3. 呉鎮守府気象観測所, 4. 佐世保鎮守府気象観測所, 5. 第四艦隊事件

第3章 海軍航空隊における気象業務

1. 海軍航空術研究委員会の設置と追浜飛行場の整備, 2. 霞ヶ浦海軍航空隊, 3. 横須賀海軍航空隊, 4. 佐世保海軍航空隊, 5. 海軍航空廠, 6. 戦中期における航空戦隊での気象業務

第4章 海軍における気象要員の養成

1. 海軍大学校選科学生と海軍航海学校気象専攻学生, 2. 海軍航海学校における気象要員の養成, 3. 海軍航海学校の気象術練習生制度と分校の設置, 4. 技術系文官の採用

第5章 水路部における気象業務の拡充

1. 水路部の組織と業務, 2. 水路部における気象業務の実施, 3. 水路部における第五課の新設と気象業務の拡充, 4. 企画院気象協議会の設立と測候所の国営移管, 5. 第三部の新設

第6章 気象観測所の開設と展開

1. 艦船による気象・海象の観測, 2. 千島列島・樺太における気象観測の開設と展開, 3. 幌筈気象観測所, 4. 占守島における気象観測, 5. 南洋諸島における気象観測所の開設と展開, 6. 移動観測班による気象観測

第7章 海軍気象部の特設, 独立と終焉

1. 海軍気象部の特設, 2. 海軍気象部の独立, 3. 海軍気象部における本部と分室の移転, 4. 海軍気象部における予算と執行, 5. 陸海軍気象委員会の設置

第8章 特設気象隊の創設と展開

1. 上海気象観測所の設置と展開, 2. 特設海軍気象隊の開設, 3. 戦中期における特設気象隊の組織構成と要員配置, 4. 特設気象隊の概要, 5. 海軍における気象無線放送

第9章 水路部修技所と海軍気象学校の設立と展開

1. 水路部の要員教育と水路部修技所の設立, 2. 『水路部修技所案内』, 3. 水路部気象修技所・海軍気象部修技所, 4. 海軍気象学校の開校と閉鎖, 5. 戦中期における気象要員養成の変遷

第10章 海軍の気象資料

1. 気象資料, 2. 気象学教科書・気象術教科書, 3. 気象観測原簿類, 4. 飛行適否の観測, 5. 天気図, 6. 気象暗号書

第11章 終戦時の気象業務

1. 終戦時の海軍気象部, 2. 終戦時における航空基地の気象観測所, 3. 外地における気象業務の終戦処理

終章

1. 海軍大佐 大田香苗『海軍勤務回想』第五卷之一～五, 2. 海軍技術大尉 高橋淳雄『第三気象隊マニラ支隊 人事処理資料調書 他』, 3. 附表1 防衛研究所戦史研究センター史料閲覧室で公開されている海軍の「⑥技術-気象」に関する目録, 4. 附表2 気象庁図書館に所蔵されている「旧軍関係パンフレット」の書誌情報, 5. 附表3 記録文集『あおぞら』第1集から第五集に掲載されている回想録のタイトルと著者の略経歴, 6. 附表4 海軍における気象業務略表

おわりに

参考文献, 追補, 附表, 人名索引, 事項索引である。

以上のように, 著者は帝国日本の気象観測ネットワークに関する3冊の著書で, 貴重な情報・資料の提供・紹介を行っている。著者の並々ならない努力と長時間の投入に

<http://agrmet.jp/wordpress/wp-content/uploads/2017-C-2.pdf>

2017年7月10日掲載

Copyright 2017, The Society of Agricultural Meteorology of Japan

よって成し遂げた業績，すなわちほとんど人に見られることのない多くの資料の紹介・解説によって，今回も目の目を見ることができたことは，大変有益であると思っている。是非とも一読されるとともに有効利用されることを願っている。

引用文献

真木太一，2013：満洲の農業試験研究史，山本晴彦 著，生物と気象 **14**, C1.

真木太一，2014：帝国日本の気象観測ネットワーク－満洲・関東州－，山本晴彦 著，生物と気象 **14**, C2.

真木太一，2015a：帝国日本の気象観測ネットワークⅡ－陸軍気象部－，山本晴彦 著，生物と気象 **15**, C3-4.

真木太一，2015b：帝国日本の農業試験研究 華北産業科学研究所・華北農事試験場の展開と終焉，山本晴彦 著，生物と気象 **15**, C1-2.

山本晴彦，2013：満洲の農業試験研究史，農林統計出版，東京，213pp.

山本晴彦，2014：帝国日本の気象観測ネットワーク－満洲・関東州－，農林統計出版，東京，330pp.

山本晴彦，2015a：帝国日本の気象観測ネットワークⅡ－陸軍気象部－，農林統計出版，東京，531pp.

山本晴彦，2015b：帝国日本の農業試験研究 華北産業科学研究所・華北農事試験場の展開と終焉，農林統計出版，東京，402pp.

(九州大学名誉教授 真木太一)